

第2回教育研究評議会記録

日 時 平成24年4月25日(水) 13:30～15:00

場 所 柏原キャンパス事務局棟 大会議室

出席者 長尾, 栗林, 若井, 越桐, 成山, 野田, 横井, 石田, 高橋, 田中, 向井, 小山,
伊藤, 入口, 鈴木, 久田, 安部, 辻岡, 土井, 横山, 大脇, 林, 吉田(23名)

陪席者 野口監事

傍聴人 石橋紀俊准教授

開会に先立ち、長尾学長から平成24年度第1回教育研究評議会の記録確認がなされた。引き続いて、長尾学長から議事の進め方については開催通知の順番に進める旨の発言がなされた。さらに、傍聴申請があった1名に対して全ての議題の傍聴が認められた。

議題(1) 平成25年度の教員配置について

長尾学長から資料に基づき説明が行われ、原案どおり了承された。

報告事項(1) 平成24年度客員教授の称号付与について

長尾学長から資料に基づき報告がなされた。

【主な質疑】

- ・ 学校危機メンタルサポートセンターの非常勤講師に客員教授の称号を付与する必要があるのかとの質疑に対して、学校危機メンタルサポートセンターは、例えば学校安全講習会において、学校安全に関する多様な講習を行うため、多様な人材を確保する必要がある。また、同センターは全国共同利用施設であり、全国を視野に入れた幅広いスタッフに参加してもらう必要があるためとの答弁が長尾学長よりなされた。

報告事項(2) その他

1) 大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築(HATOプロジェクト)について

長尾学長から資料に基づき報告がなされた。

【主な質疑】

- ・ HATOプロジェクトは四大学の学長が議論を重ねたのち、文部科学省へ持っていったのかとの質疑に対して、大学数の削減、統廃合の話が出ているなかで、11教育大学が連携して個々を活かす必要があること、国大協が国民への約束として、大学の機能強化、具体的には大学間連携を課題としたことを受け、学長間で話し合い、その中でHATOプロジェクトが企画されたとの答弁が長尾学長よりなされた。
- ・ 11教員養成系大学のうち、4つの大規模大学が連携しようとするのは、拠点校づくりと受け止められかねず、教員養成系大学の再編の可能性・危険性があると思うが、その辺りは議論されているのかとの質疑に対して、そういったことも含めて、四大学の学長は想定される単科の教員養成系大学に対する厳しい情勢を念頭に置きながら議論を重ねているとの答弁が長尾学長よりなされた。
- ・ 連携する4つの大規模大学は、いわゆる新課程の教養学科を持っているが、連携の趣旨が教員養成機能の充実・強化ということは、新課程、教養学科を比較的軽視しているのかとの質疑に対して、教員養成大学が教員養成機能を強化しなければ、新課程も存続できないことが明らかになってきており、教員養成課程の強化が新課程の軽視にはならないと思っているとの答弁が長尾学長よりなされた。

- HATO プロジェクトは具体的に何がしたいのかがみえないとの質疑に対して、手元の資料以外に平成24年度、25年度のおおまかなプランは持って行っているが、そのプランについてはこれから更に詰めていく必要があるとの答弁が学長よりなされた。
- 四大学連携にしろ三大学連携にしろ、教員養成課程、教養学科にとっても大きな問題であるのでタイムリーな情報を提供してもらいたい。また、情報を提示する際には私達構成員が理解できる形でしていただきたいとの意見に対して、三大学間連携も最終的には高度化、ドクターに結びつく話でなければ社会的にも説明がつかないというのが三大学共通の理解であり、そのような話し合いの中で、予算獲得の話が出てきた。また、連携し補強していくのは意味のあることだが、どのような学生を育成していくのか、どう助け合っていくのが重要であり、そういった発想で議論を進めているとの答弁が栗林副学長よりなされた。更に、大学院構想については改革構想検討委員会でお話するが、これは、大学改革を進める上で、十分な検討が必要と承知の上で、あえて一步踏み出しても行うべき改革であるとの答弁が長尾学長よりなされた。

以 上